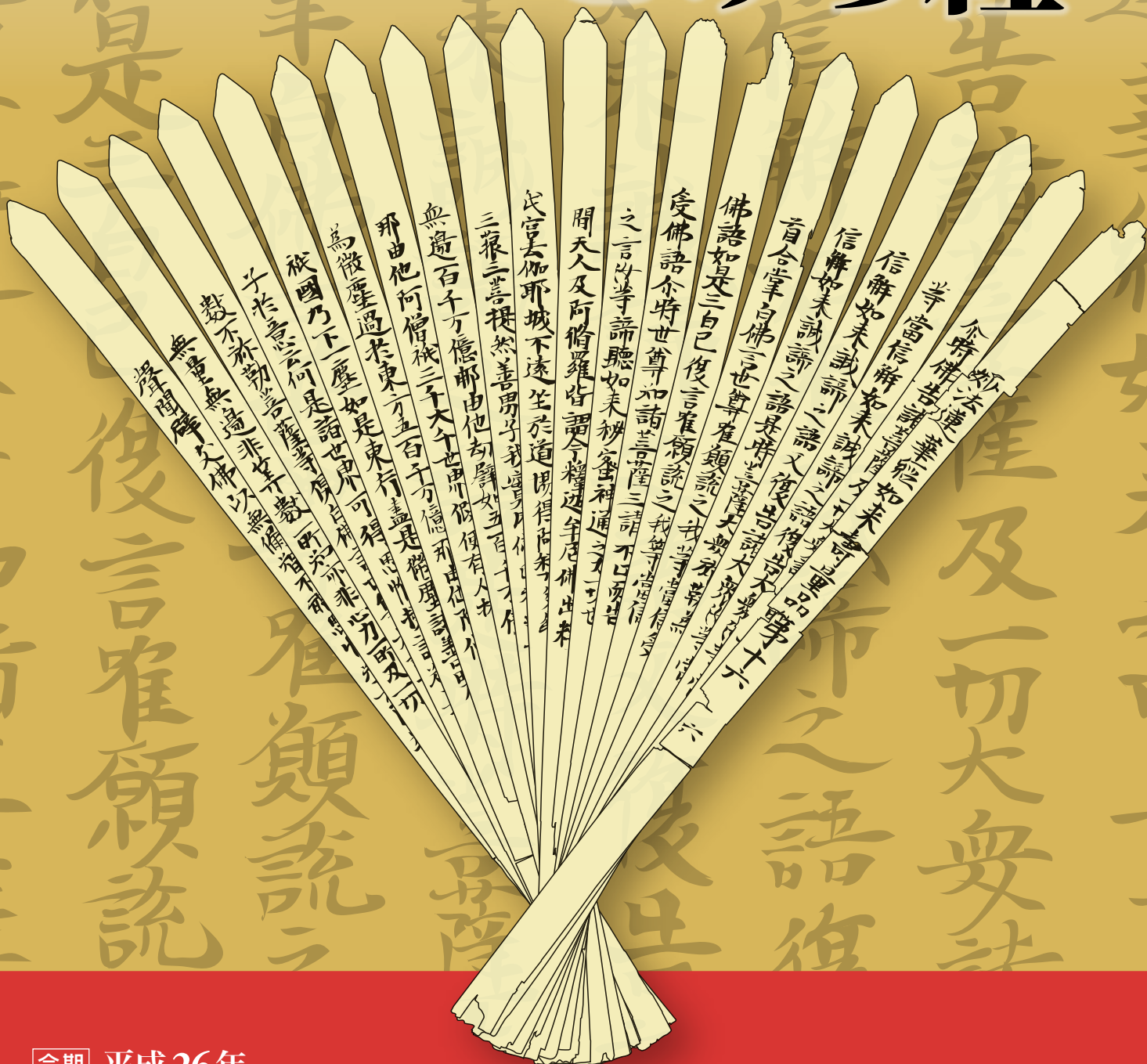


第10回  
特別展

# とら経 と遺跡 掘切こけら



会期 平成26年  
8月8日(金)～11月24日(月)  
[開館時間] 9:00～18:00

会場 黒部市歴史民俗資料館(うなづき友学館)  
富山県黒部市宇奈月町下立 682 TEL0765-65-1010  
休館日/月曜日(祝日の場合火曜日)、祝日の翌日、毎月最終木曜日  
入館料/大人 300円(団体20名以上240円)中学生以下無料

主催 黒部市教育委員会・黒部市歴史民俗資料館

◆現地研修会  
9月25日(木)  
「とやまの遺跡見学」  
※お申し込み・お問い合わせは、  
うなづき友学館へ TEL.65-1010

◆講演会  
9月28日(日) 10:00～  
「木簡の調査研究に  
おけるこけら経」  
講師 山本 崇氏  
独立行政法人国立文化財機構  
奈良文化財研究所 主任研究員

こけら経の発見

国道8号バイパス建設に伴い平成17年に堀切地内で発掘調査を行いました。調査区の溝からは素焼きの皿、五輪塔などとともに1万数千点を超えるこけら経が出土しました。富山県内では初めての出土で、国内でもこれだけ大量のこけら経が出土することは珍しく、大変貴重なものです。当時こけら経を流した状況を確認できる点でも貴重な出土例となっています。

また、こけら経は遺跡から発見されるだけでなく、寺院に奉納されたものも多くあり供養等に用いられ平安時代から江戸時代まで作られました。



堀切遺跡のこけら経

こけら経は、厚さ1mm前後の薄い木片にお経を写したものです。1枚に1行17文字を書き20枚1束とする例が多く、裏と表の両面に書く場合と堀切遺跡のように片面のみに書かれたものがあります。

堀切遺跡のこけら経は、法華経と理趣経の2種類のお経があります。大きさは、法華経で長さ29~30cm、幅0.9~1cm、厚さ0.02~0.04cmです。理趣経は長さ17~22cm、幅1~1.4cm、厚さ0.01~0.04cmです。法華経と理趣経でこけら経の大きさの違いがみられます。

法華経は、一卷から八巻まであり全文で4,088行69,384文字です。

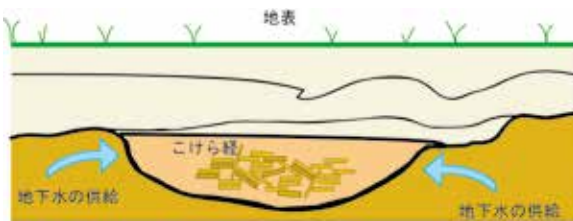
理趣経は、200行ほどです。筆跡を見ると数人で分担していて、限られた時間内で写経していると考えられます。



こけら経が、現代まで残っていたのはなぜでしょうか

木は地中で腐食して消滅していきます。こけら経のような薄くて小さな木製品は腐食して残りません。また、残っていても状態が非常に悪いものが普通です。しかし、木は温度の低い水に浸かった状態では、腐食の進行が遅くなります。

黒部川扇状地にある堀切遺跡では、黒部川からの清らかで水温の低い地下水が豊富に湧水しています。地下水が空気を遮断することで保存状態の良いこけら経が地中に残っていたのです。全国でも有数の名水地帯である黒部の地理的環境がこけら経などの遺物をタイムカプセルのように現代の我々に残してくれたのです。



平成26年  
8月8日(金)~11月24日(月)

[開館時間] 9:00~18:00

休館日/月曜日(祝日の場合火曜日)、祝日の翌日、毎月最終木曜日  
入館料/大人300円(団体20名以上240円)中学生以下無料

黒部市歴史民俗資料館(うなづき友学館)

富山県黒部市宇奈月町下立 682 TEL0765-65-1010

